

IFR 見通し: 日本が世界のロボット供給量の 52 パーセントを提供

独フランクフルト & 東京 --(ビジネスワイヤ)-- 日本は世界的に優勢な産業用ロボット製造国です。2016 年に日本のサプライヤーの生産能力は、過去最高レベルの 15 万 3000 台を記録しました。現在、日本のメーカーは世界の供給量の 52 パーセントを提供しています。これらは、国際ロボット連盟(IFR)が 2017 年 11 月 29 日～12 月 2 日に東京で開催する国際ロボット展(iREX)に先立って公表した結果です。

国際ロボット連盟(IFR)の議長を務めるジョー・ジェンマ氏は、次のように述べています。「日本は高度にロボット化された国で、ロボットでさえロボットが組み立っています。日本のロボットの売上高は、2016 年に 10 パーセント増加して約 3 万 9000 台に達し、過去 10 年間で最高レベルに達しました。」

日本の高輸出比率

日本は 2016 年に、3090 億円(約 27 億米ドル)相当の価値の計 11 万 5000 台近い産業用ロボットを輸出しました。これは 1 年間当たりの輸出量として過去最高で、群を抜いています。輸出比率は 2011～2016 年にかけて、72 パーセントから 75 パーセントへと増加しました。北米、中国、韓国、欧州が攻略上の輸出先でした。国内市場も 2009 年の金融危機から堅調に立ち直り、2006 年(3 万 7000 台)以来最高レベルの 3 万 9000 台に達しました。

日本では産業用ロボットの最大の対象市場は自動車業界で、全供給量で 36 パーセントのシェアを占めています。自動車メーカーが購入した産業用ロボットは、2015 年と比べて 48 パーセント増加しました(2016 年:5711 台)。日本の自動車メーカーは海外、特に中国とその他のアジア諸国、そして米国やメキシコでますます生産施設を拡張しています。

2015 年に電気・電子機器業界向けロボットが目覚ましい成長(1 万 1659 台)を遂げた後、2016 年に 7 パーセント減少しました。しかし、当業界は海外の生産施設に投資することを選びました。チップ、ディスプレイ、センサー、バッテリー、その他の技術(コネクテッドインダストリー)への需要が増えるため、ロボットへの投資が継続される見通しです。

2020 年に向けた日本の見通し

IFR は、日本ロボット工業会(JARA)の見積もりを基に、2017 年は国内の設置台数が約 10 パーセント増加すると予測しています。日本での景気回復が続けば、2018 年から 2020 年にかけてさらに、年平均で約 5 パーセント成長する可能性があります。



IFR: <https://ifr.org/ifr-press-releases/>

businesswire.com のソースバージョン:

<http://www.businesswire.com/news/home/20171121005778/en/>

本記者発表文の公式バージョンはオリジナル言語版です。翻訳言語版は、読者の便宜を図る目的で提供されたものであり、法的効力を持ちません。翻訳言語版を資料としてご利用になる際には、法的効力を有する唯一のバージョンであるオリジナル言語版と照らし合わせて頂くようお願い致します。

CONTACT:

Press

econNEWSnetwork

Carsten Heer, +49 (0) 40 822 44 284

press@ifr.org

IFR International Federation of Robotics

Secretariat

c/o VDMA Robotics + Automation

Lyoner Straße 18

60528 Frankfurt am Main

Germany

www.ifr.org